



姉妹都市協会のマスコット
「シスターくん」

TOMO 姉妹都市ニュース

札幌姉妹都市協会 〒060-0001 札幌市中央区北1条西3丁目札幌MNビル 札幌国際プラザ内 TEL: 011-211-2105

札幌市の姉妹・友好都市紹介

ポートランド市 (アメリカ)

1959年11月に提携。オレゴン州最大の都市で、環境に優しい都市として知られています。毎年6月に開かれる「ローズフェスティバル」が有名です。



▲ローズフェスティバル

ミュンヘン市 (ドイツ)

1972年8月に提携。バイエルン州の州都で、ビールの街として有名。毎年9月から10月にかけて行われるオクトーバーフェストでは連日連夜ビールを飲み、歌い踊り明かします。



▲新市庁舎

瀋陽市 (中国)

1980年11月に提携。遼寧省の省都で、7200年前には定住集落があったとされ、長い歴史を持つ古都。瀋陽故宮は世界遺産に登録されています。



▲瀋陽故宮

ノボシビルスク市 (ロシア)

1990年6月に提携。ロシア第3の都市で、世界で最も人口が急増した街と言われています。音楽やバレエなど優れた芸術文化を誇ります。



▲国立オペラ・バレエ劇場

大田広域市 (韓国)

2010年10月に提携。国内随一の先端科学技術都市として注目されています。百濟時代に発見された儒城(ユソン)温泉が有名です。



▲エクスボ科学公園

～札幌-ポートランド姉妹都市提携60周年記念事業～

「やさしい英語で聞く 行ったつもりでポートランド」を開催しました

2019年、札幌とポートランドは姉妹都市提携60周年を迎えます。1年を通じて市民の皆様がポートランドのことをさらに知り、親しんでいただけるように、様々な関連事業を行う予定です。その始めとして、2019年2月9日(土)、「やさしい英語で聞く 行ったつもりでポートランド」を開催しました。今回ガイド役を務めたのは、札幌市国際交流員のリア・クラスさん、マージェリー・ワイドマンさんのお二人。ポートランド国際空港に到着した後、路面電車の『MAX』を利用して、日本庭園やローズガーデンなどの名所や、地元の人々が楽しむランチやアイスクリームの店を訪問したり、郊外の大自然の中を歩いたり...。写真や動画をふんだんに使ってポートランドの魅力を臨場感たっぷりに楽しく紹介しました。



▲ガイドを務めたリア・クラスさん(右)、マージェリー・ワイドマンさん(左)

セミナーの最後には、今年3月にポートランドへ派遣される市立高校生16名の決意表明も行われ、温かい拍手が送られました。

参加者の方からは、「やさしい英語だったので内容を理解できた。ポートランドに行ったような気分を味わえて楽しかった!」「ポートランドに行ってみたくなった」などの感想が寄せられ、ポートランドを身近に感じていただける機会となったようです。

◀ポートランドらしい「ヒッピースタイル」で登場したリアさん



▲会場は満員御礼

札幌-ポートランド姉妹都市提携60周年記念事業の情報を配信しています!

ポートランドに関する今後の主催イベント等は、国際プラザウェブサイト、facebookの他、Eメールでもご案内します。ご希望の方は専用アドレスまでご連絡ください。

✉ portland60@plaza-sapporo.or.jp

※お預かりするアドレスは60周年事業周知にのみ使用し、事業終了後に破棄します。
※portland60@plaza-sapporo.or.jpからのメールが受信できるよう設定をお願いします。





市立高校16名がポートランドに派遣されました

今年度も、『札幌市立高校生ポートランド派遣事業』が行われ、2019年3月11日(月)から3月20日(水)の日程で、市立高校8校から選抜された16名の生徒たちがポートランドを訪問してきました。

この派遣事業は、現地での学校生活やホームステイを通じてアメリカの人々の日常生活を知ることにより、自国の文化と伝統を再認識し、相互に理解を深めることを目的として、札幌市立高等学校・特別支援学校校長会の協力のものと、札幌国際プラザが行っているものです。

この10日間の研修で、日本語イメージ教育を行うグラント高校で現地の高校生と一緒に授業を受けたり、コミュニティサービスでのボランティアを体験したりと、生徒たちは様々な経験を積んできました。2019年の6月にはグラント高校の生徒たちが夏期研修で札幌を訪れる予定です。



▲ポートランド空港到着



▲ポートランド日本庭園見学



▲ホストファミリー対面式



▲シティツアー



▲ポートランド市長表敬訪問



▲グラント高校での授業体験



▲日系レガシーセンター見学



▲コミュニティセンターでのボランティア体験



▲お別れパーティー

【お知らせ】札幌市立高校生ポートランド派遣 帰国報告会 ～高校生の目で見えた姉妹都市ポートランド～

今回ポートランドへ派遣された生徒たちが、市民の皆様に向けて研修の成果を報告します。ぜひ高校生たちの目で見えた、今のポートランド研修の成果をお聞きください。(写真は昨年の報告会の様子です。)

日 時: 2019年4月21日(日)14:00-15:30

場 所: 札幌市中央図書館3階 講堂 ※入場無料・申込不要です。



【5位入賞！】大田広域市のチームが国際雪像コンクールに参加しました

2019年2月4日(月)より開幕した『第70回さっぽろ雪まつり』は国内外から過去最多となる273万7千人の来場者が訪れ、大変な盛り上がりを見せました。今年も大通会場11丁目国際広場で開催された『国際雪像コンクール』には、9ヶ国から参加チームが出場し、姉妹都市からも韓国・大田広域市の彫刻家チームが参加しました！

チームのメンバーであるキム・ミキョンさんは、今回で札幌に来たのは5回目。「札幌は人々の笑顔が溢れている街だと思います。来るといつも温かい気持ちになります！」とお話くださいました。会期中は大田広域市から朴 英淳(パク・ヨンソン)政務副市長ら訪問団も来札し、雪まつり会場も視察。雪の中、熱心に雪像を鑑賞されていました。

大田チームは、球体が組み合わさる柔らかなフォルムが印象的な「シャボン玉」をイメージした雪像を製作し、見事に5位入賞しました！



▲完成目前の雪像の前で



2019年3月5日(火)～3月12日(火)の8日間、2018年度国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業として、札幌市内の中学生選手8名、役員等計13名の陸上競技選手団がロシア・ノボシビルスク市を訪れました。

本事業は、姉妹都市中学生とのスポーツ交流を通して相互理解と友好親善を深め、国際感覚豊かな青少年の育成を図ることを目的に行われているもので、1985年度から続いています。

今回の訪問では「ノボシビルスク市青少年陸上競技大会」に参加した他、郷土資料館を訪問して歴史や文化を学んだり、ロシアの伝統料理「ブリヌイ(ロシア風クレープ)」を作ったりする体験を通じ、文化交流を図ることができました。



▲陸上競技大会参加者と記念撮影



▲自撮りであっという間に仲良しに

3月9日(土)～10日(日)に国立ノボシビルスク工科大学スポーツ館で開催された大会は、日本では見られないカーブにバンク(傾斜)がある屋内陸上競技場で行われました。慣れない環境での大会参加でしたが、出場した全種目でメダルを獲得するなど札幌市選手団が大活躍を見せ、現地の方々から「おめでとう!」「すごかったよ!」などといった言葉をかけていただくことができました。

また、大会前日には、大会に参加するノボシビルスク市中学生らと一緒に練習をしたりゲーム形式の運動をしたりする中であっという間に仲が深まり、一緒に記念撮影をしたりスマートフォンの翻訳機能を用いて会話をしたりと、積極的に交流する姿が見られました。



国際交流員のエレナさんが見た！ ジュニアスポーツ交流 in ノボシビルスク

今回のジュニアスポーツ姉妹都市交流には、札幌市国際交流員のエレナ・ズレロワさんも同行しました。ノボシビルスクで選手団と過ごしたエレナさんに、感想を聞いてみました！



国際交流員になってから姉妹都市事業に参加したり、異文化理解イベントを行ったり、ロシアへ何回も出張したりしましたが、今回の出張は一番楽しくて印象に残っている仕事の1つです。約8日間、札幌の陸上競技選手と一緒に過ごし、アテンドや通訳をしたり、伝統文化を説明したりしましたが、面白いことに仕事だという感じがしませんでした。ほぼ毎日ハプニングがありましたが、みんなノボシビルスクで楽しい時間を過ごし、良い経験ができたのではないかと思います。



▲ロシア料理教室はとても盛り上がりました



▲帰りの空港で記念写真

私にとっても今回のスポーツ交流は非常に良い思い出です。それは、選手たちがノボシビルスクについて一番気に入ったことについて聞かれた時、半分以上の子が、「ノボシビルスクの人はみんな笑顔で明るくて優しい。またノボシビルスクにきたい」と答えてくれたからです。この子どもたちの素直な言葉に、私はとても感動しました。そして私はこの8人の選手のことを大好きになりました！ノボシビルスクをはじめロシアにとって、最高の褒め言葉だと思います。総合稽古、ロシア料理教室、買い物など...一緒に経験したことをみんな一生忘れないと思います。

【お知らせ】子ども向け姉妹都市紹介リーフレットができました！

札幌姉妹都市協会と(公財)札幌国際プラザは、お子様向けに札幌の姉妹都市を紹介するリーフレットを作成しました。各都市の人口、あいさつ、通貨、有名な食べ物や文化など、分かりやすくイラスト付きで紹介しています。リーフレットは国際プラザ交流サロンに配架していますので、ご自由にお持ちください！(大人向けの姉妹都市紹介リーフレットも配架しています。)



姉妹都市情報は札幌姉妹都市協会のFacebookでチェック！

札幌の姉妹都市関係のイベントの情報などを写真付きでご紹介するほか、姉妹都市交流に関心を寄せて下さっている皆様の情報交換の場としてもお使いいただけます。

<https://www.facebook.com/sapporo.sistercities>





アメリカ・ポートランド市 レポーター：リア・クラース

全米のヘーゼルナッツ収穫量の99.9%をオレゴン産が占めているをご存知ですか？1989年に州公認のナッツになって以来、ポートランド人はヘーゼルナッツに夢中です。ちなみにオレゴン州ではヘーゼルナッツは「フィルバート」とも呼ばれています。デザートや甘いものはもちろん、辛い料理にも使われ、流行っています。ヘーゼルナッツを使った香ばしいソースを作ったり、焼き魚に塗ったり、米に混ぜたり、シンプルにローストして料理に振りかけたり、様々な調理法があります。食品会社もオレゴン産ヘーゼルナッツ使用製品をどんどん製造しています。ローストしたナッツはもちろん、塩、ピリ辛ハラペーニョ、オレゴン産マリオンベリーチョコやシナモンなど、様々な味のナッツが販売されています。おやつとしても美味しい！今度、ポートランドの独特のなまらうまいヘーゼルナッツ料理を試してみませんか？



ドイツ・ミュンヘン市 レポーター：レオナルド・プリנקマン



ミュンヘン市は、再生可能エネルギーへの転換の促進や環境保護の取組に注力し続けています。2019年3月6日オデオン広場にて、ミュンヘンのディーター・ライター市長とインゴ・ヴォルトマン交通局長がミュンヘン市内公共交通機関で初となる完全電気バスを紹介しました。この日から2台の電気バスが運行していますが、2019年中にさらに4台増やし、2020年中には「100番線」のバスを全て電気バスにする計画とのことです。電気バスは1回充電するだけで一日に180~260kmの距離を走行することができ、充電にはグリーンエネルギーのみを使用するため、環境への負担を必ず最小限に食い止めると説明されました。

中国・瀋陽市 レポーター：王 媛（オウ・エン）

中国東北地方の「老工業基地」の重要都市として、瀋陽はよく知られていますが、「文芸」のイメージはあまりないのではないでしょうか？しかし、実は瀋陽には「文芸青年」たち（文化、芸術を好きな青年たちのことを指す言葉です）が好きになる場所がいくつかあります。まずは、「鉄錨(かないかり)1956文化創意産業園」です。その前身は1956年に創立された「瀋陽エメリー・フィレット工場」で、「鉄錨」という言葉が名前にあるのはその名残です。この産業園の中には、歴史感溢れる建物以外にも、文芸氣息溢れるコーヒーショップやバー、芸術作業室、職人手作り室などもあります。そして、「玖伍(ジウウ)文化城」というところでは、「逆さま」をテーマとしたユニークな体験通り、手作り作業場やオリジナルブランドの商品などもあります。「スターオレンジ・映画紀元」という空間では民国時代の街並みが再現され、まるで民国映画の主人公のような気持ちになります。そこで歩きながら、おいしい食べ物を食べれば、お腹だけでなく「文芸精神」も満足するでしょう。



ロシア・ノボシビルスク市 レポーター：エレナ・ズレロワ



マスレニツァという祭りはロシア伝統的な祭りの中でも最も愛され盛大にお祝いされている祭りです。歴史は非常に長くて、この冬を見送り、春を迎える祭りは、2月下旬~3月上旬頃に行われます。今年は3月4日から10日まで行われました。祭り期間中は、どんなに寒くてもみんな外に出て、踊ったり、歌ったり、遊んだり、体を温める美味しい料理を食べたりしてお祝いします。民族衣装を着ている人も少なくありません。マスレニツァのメイン料理はブリネィというロシア風のクレープです。ブリネィは丸くて、黄色で、熱くて、まるで太陽のようによく言われています。ロシア伝統文化に触れて、ロシアならではのおもてなしを体験してみたいなら、ぜひマスレニツァに参加してみてください。

韓国・大田広域市 レポーター：イ・ミヒョン

大田にトラムが走ることになりました。2014年から計画はされていたものの、なかなか進まなかったトラム建設計画ですが、2019年1月に政府の国家均衡発展・地方発展を後押しする政策が決まったことをきっかけに本格化し始めました。大田だけでなく、首都圏を含む韓国の5都市でトラムが導入される予定であり、色んなところでトラムに出会う機会が増えると思います。韓国に設置されるトラムは電線がなく、バッテリーで動く無架線低床トラムです。低床なので障がい者や高齢者のような交通弱者も利用しやすいトラムだそうです。写真は2017年に実施したトラムデザイン公募展の大賞受賞作です。大田は科学都市として名をあげているので、デザインからも近未来感が感じ取れます。トラムが導入されたら大田の街並みがどんな風に変化するのかとても楽しみです。

